



天文資料

2026年 6月号

令和8年度 第3号 (6月号)

令和8年5月25日

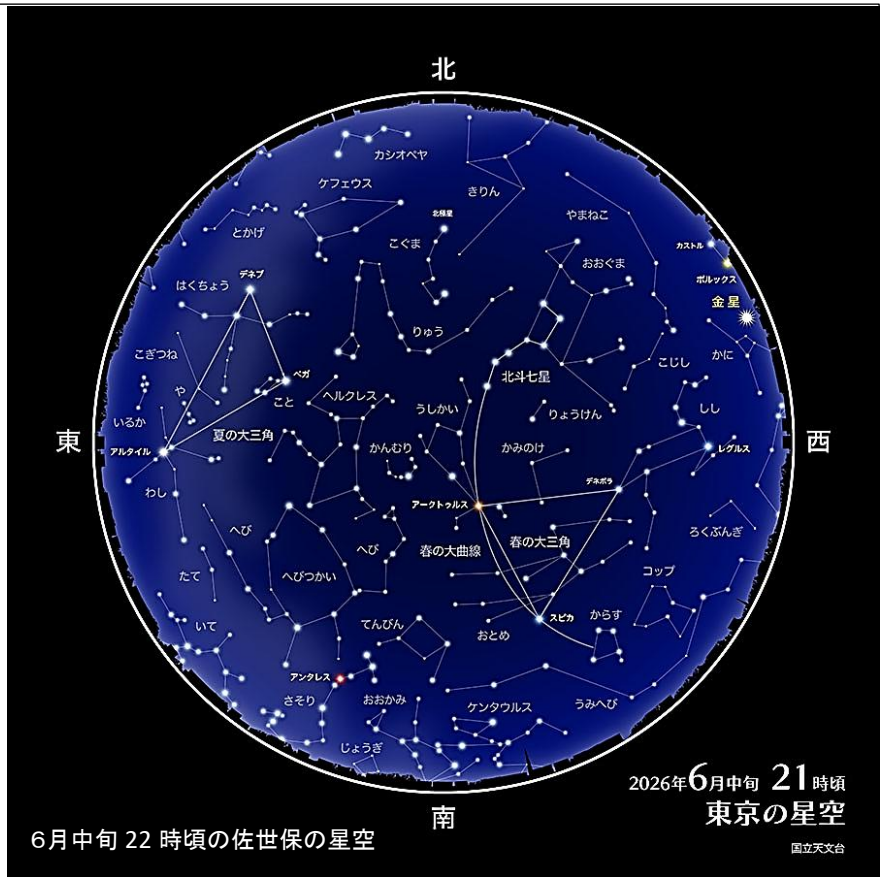
発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<夏至の頃の星空>

2026年は6月21日が、1年の中で昼の長さが最も長くなる夏至の日です。日の入りの時刻は、6月の終わりに1年で最も遅くなります。日の入り後、空が暗くなった西の空には、金星と木星が明るく輝いています。9日前後は金星と木星がとても近い位置に見えます。水星も16日に東方最大離角を迎え、夕方の空で観察しやすくなります。日の出前の東の空には、土星と火星が見えます。火星は6月上旬ではまだ高度が低いため、下旬の方が観察はしやすいでしょう。月がこれらの惑星に接近して並んで見える日も注目です。



6月中旬 22 時頃の佐世保の星空

2026年6月中旬 21 時頃
東京の星空

国立天文台



6月の暦
星空情報

- ・6日 芒種(太陽黄経75度)
- ・8日 下弦
- ・11日 入梅(太陽黄経80度)
- ・15日 新月
- ・16日 水星が東方最大離角
- ・21日 夏至(太陽黄経90度)
- ・22日 上弦
- ・29日 水星が留
- ・30日 満月

金星と木星が接近 6月の日の入り後の西の空には、宵の明星の金星と太陽系最大の惑星である木星が輝いています。どちらもとても明るく輝いて見えるでしょう。そんな二つの惑星が8日から10日にかけて、西の空で接近します。マイナス4等の金星とマイナス1.9等の木星が並びます。

月が土星と火星に接近 6月の土星は深夜に、火星は未明に東の空から昇ってきます。日の出1時間前には、東の低空に赤く輝く火星と見やすい高さにある土星を観察することができます。10日から11日にかけて、月が土星に近づきます。8日の下弦を過ぎて、半月よりも欠けた月と0等台で輝く土星が並んでいる様子が見られます。13日には月はさらに細い形となり、1.3等の明るさで輝く火星に近づきます。火星は低空にあるため、薄明の空に紛れてしまい見つけにくいかもしれませんが、細い月を頼りに見つけてみてください。